

岩手県感染症週報

平成27年第32週(8月3日～8月9日)

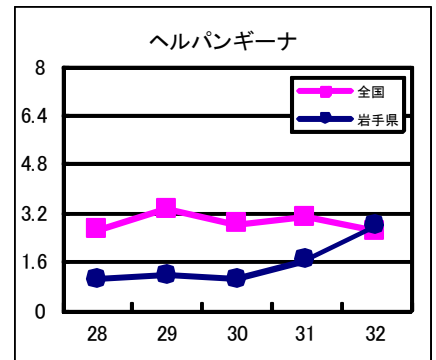
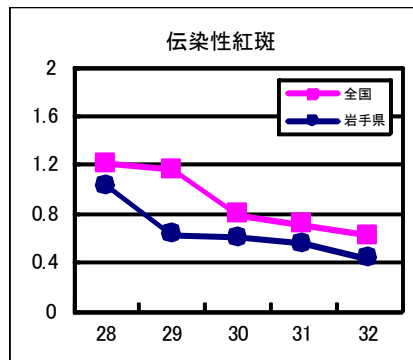
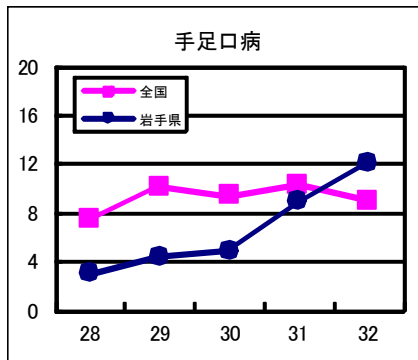
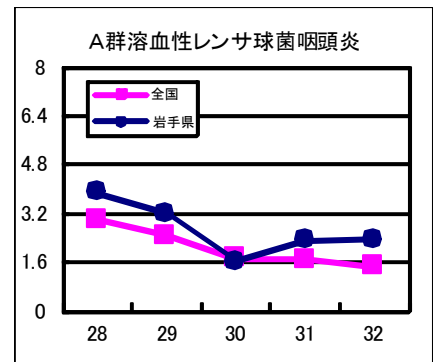
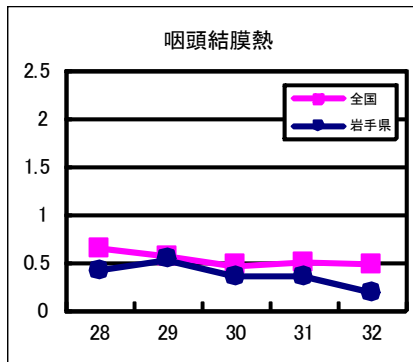
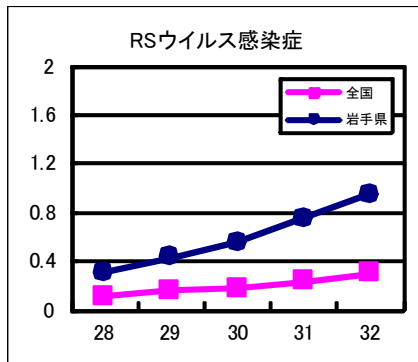
岩手県感染症情報センター

第32週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が10例ありました。このうち潜在性結核は5例です。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症は、盛岡市から4例、県央及び中部地区から各1例、一関地区から19例の計25例の報告があり、今年になって最も多い報告でした。一関地区の保育園では腸管出血性大腸菌O26による集団感染事例が発生しました。本疾患の感染経路は経口感染で、少ない菌数でも感染するため、食品の加熱処理と十分な手洗い励行により食中毒予防とヒトからヒトへの二次感染の予防が重要です。
- 4 類感染症 ・つつが虫病の患者の報告が、中部地区から1例ありました。50歳代の女性です。
・レジオネラ症の患者の報告が、盛岡市から1例ありました。60歳代の男性です。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
・手足口病は、大船渡地区を除く9地区で警報値(定点あたり患者数5人)を超えました。県全体の定点あたり患者数は12.1人と、前週からさらに増加しました。例年、9月まで流行が続くので、引き続き注意が必要です。
・ヘルパンギーナは、中部地区で警報値(同6人)を超えたほか、県央及び大船渡地区で多くなっています。
・手足口病やヘルパンギーナは、飛沫感染のほかに便中にもウイルスが排出されるので、予防には、石けんと流水による手洗いが重要です。どちらも1、2歳児に多くっており、保育園等では手洗いの励行が重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		28	29	30	31	32		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0.02	0	→	
	全国	0.09	0.1	0.08	0.06	0.05		
RSウイルス感染症	岩手県	0.31	0.43	0.55	0.75	0.95	↗	☆
	全国	0.11	0.16	0.18	0.23	0.3		
咽頭結膜熱	岩手県	0.41	0.53	0.35	0.35	0.18	→	☆
	全国	0.64	0.56	0.46	0.5	0.47		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.87	3.2	1.63	2.3	2.33	→	☆☆
	全国	2.99	2.48	1.73	1.7	1.46		
感染性胃腸炎	岩手県	4.77	3.95	2.85	3.15	2.85	→	☆
	全国	5.08	4.4	3.42	3.58	3.4		
水痘	岩手県	0.38	0.13	0.3	0.25	0.15	→	☆
	全国	0.42	0.42	0.34	0.3	0.29		
手足口病	岩手県	3	4.38	4.85	8.88	12.1	↗	☆☆☆
	全国	7.39	10.16	9.38	10.26	8.95		
伝染性紅斑	岩手県	1.03	0.63	0.6	0.55	0.43	→	☆
	全国	1.21	1.16	0.79	0.71	0.62		
突発性発疹	岩手県	0.59	0.58	0.53	0.45	0.38	→	☆
	全国	0.62	0.59	0.55	0.59	0.6		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	1.03	1.18	1.03	1.65	2.78	↗	☆☆
	全国	2.65	3.34	2.82	3.05	2.61		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.21	0.15	0.13	0.23	0.1	→	☆
	全国	0.58	0.56	0.52	0.58	0.53		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0.07	0.07	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.43	0.64	0.79	0.07	0.5	→	☆
	全国	0.71	0.75	0.84	0.86	0.88		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.03	0.01	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.05	0.06	0.08	0.08	0.06		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.21	0.26	0.26	0.05	0.05	→	
	全国	0.25	0.35	0.33	0.35	0.4		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.05	0.02	0.01	0.02		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	0		
	全国	4	8	7	5	4		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※中東呼吸器症候群 (MERS) 及び鳥インフルエンザ (H7N9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					累計	全国	
		28	29	30	31	32		32	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (2)	5 (0)	6 (4)	7 (6)	10 (5)	154 (69)	359	14564
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	4	93
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	2	12	25	48	123	1868
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	22
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	23
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	3	1	120
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	3	167
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	4	37
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	つつが虫病	0	0	0	0	1	5	0	72
	デング熱	0	0	0	0	0	0	5	144
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	2	90
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	24	
野兎病	0	0	0	0	0	0	0	1	
ライム病	0	0	0	0	0	0	1	6	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	1	0	0	1	15	30	896	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	7	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘 (入院例)、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 28	29	30	31	32	累計	32	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	2	0	0	4	11	661
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	1	3	152
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	1	0	0	1	26	851
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	2	3	315
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	3	108
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	1	0	0	2	3	279
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	18	859
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	42
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	153
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	22
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	13	16	1523
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	3	4	197
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	28	1392
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	70
	破傷風	0	0	0	0	0	1	7	66
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	37
	風しん	0	0	0	0	0	1	4	116
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	27	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	20	

今注目の感染症

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、発熱、口腔粘膜に現れる水疱性の発疹を特徴とした、乳幼児を中心に夏に流行する急性ウイルス性感染症です。いわゆる夏かぜの代表的疾患です。

今シーズンの岩手県の発生状況ですが、第27週から2週続けて増加し、第30週にはやや減少しましたが、第31週には増加に転じ第32週にはさらに増加しました。年によって流行の大きさは違いますが、例年、夏から9月上旬まで報告数の多い状況が続くので、今後の発生動向に注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

ヘルパンギーナ 岩手県
2009-2015年第32週

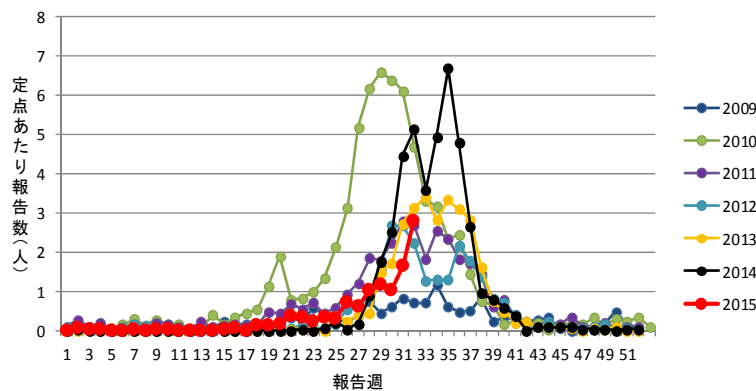


図1 ヘルパンギーナ 岩手県の年別流行状況

今注目の感染症 (つづき)

手足口病

手足口病は、口の中や手足に現れる発疹を主症状とした急性ウイルス性疾患です。乳幼児を中心に主に夏に流行する疾患です。3～5日の潜伏期において、口の中、手のひらや足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、臀部などにも出現することがあります。

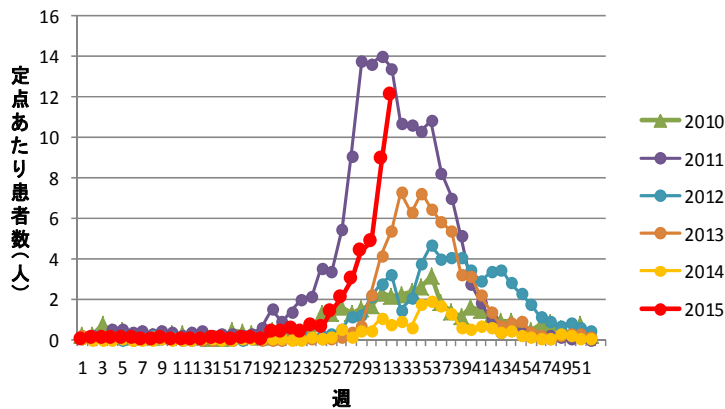
基本的には、数日で回復する予後良好な疾患ですが、まれに髄膜炎や脳炎を併発することがあるので、頭痛や嘔吐がある場合は小児科受診が必要です。

病原ウイルスは、主にコクサッキーA16 (CA16)、CA6、エンテロウイルス71 (EV71)などのエンテロウイルスですが、他のエンテロウイルスによっても発症します。環境保健研究センターで実施しているウイルス検査ではCA6が検出されています。

手足口病及びヘルパンギーナは、咳等の飛沫感染のほかに、便中にもウイルスが排出されるため、予防には手洗いの徹底が重要です。

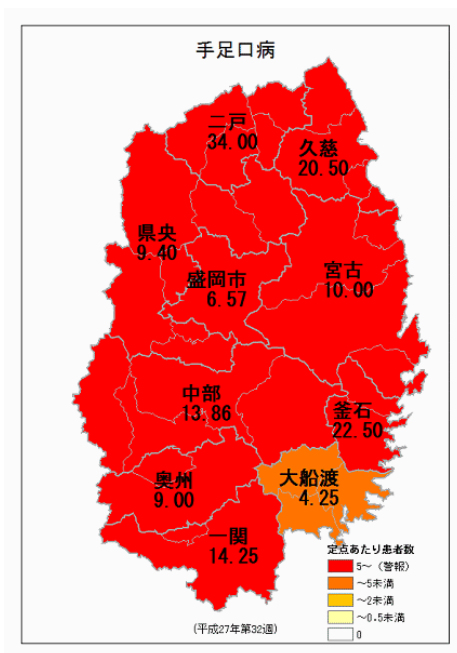
参考 感染症研究所 手足口病とは
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/441-hfmd.html>

手足口病 岩手県
2010-2015.第32週

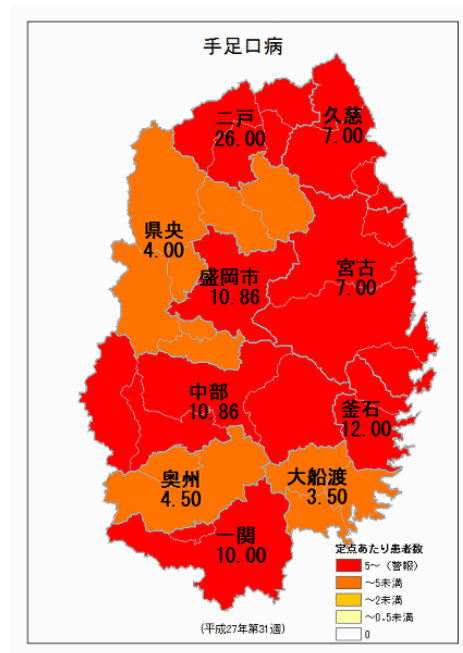


岩手県の発生状況ですが、6月下旬から増加が続いています。第31、32週は、急増し県内で警報値(定点あたり患者数5人)を超えています。

また、大船渡地区以外の9地区で警報値を超えました。今後の流行の拡大に注意が必要です。



第32週



第31週

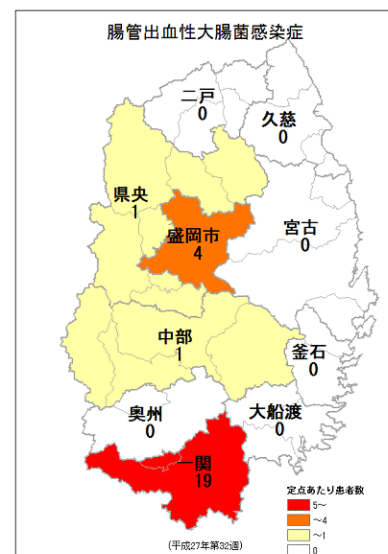
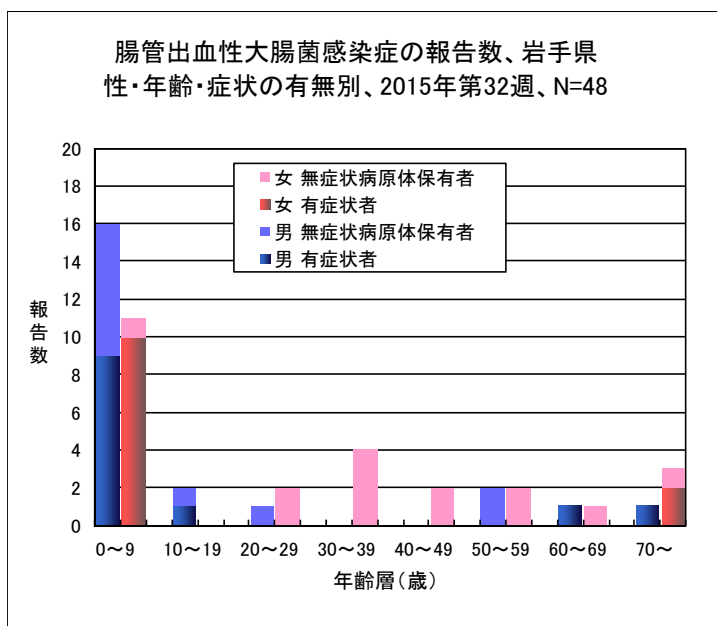
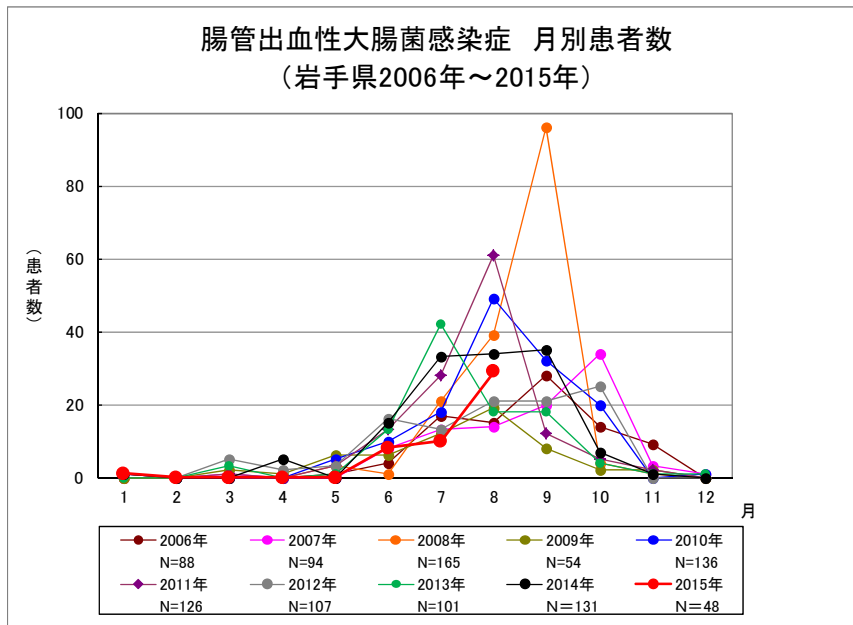
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Verotoxin:VT またはSigatoxin:Stx)を産生する大腸菌が原因の腸管感染症です。症状は、無症状から、軽度から重度の下痢、激しい腹痛、致命的なものまで様々な臨床症状があります。

岩手県の平成27年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、第32週までに48例の患者さんが報告されています。原因となった大腸菌は、O157が10例、O26が31例、O111が3例、O128が2例、O103が1例、O型不明が1例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く27名、次いで30～39歳、50～59歳および70歳以上が4名となっています。

本症の予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水による手洗いの励行が重要です。



第32週

病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- 腸管出血性大腸菌（O26）感染症の集団発生について
一関市内の保育園（園児131名、職員27名）
- ・7月29日（水）に園児1名の発生届あり
 - ・8月10日までに、23名（園児13名、職員1名、家族9名）から腸管出血性大腸菌O26を確認
 - ・23名中、有症者は10名、無症状病原体保有者は13名
 - ・症状は下痢等で、いずれも回復傾向

医療機関からの情報

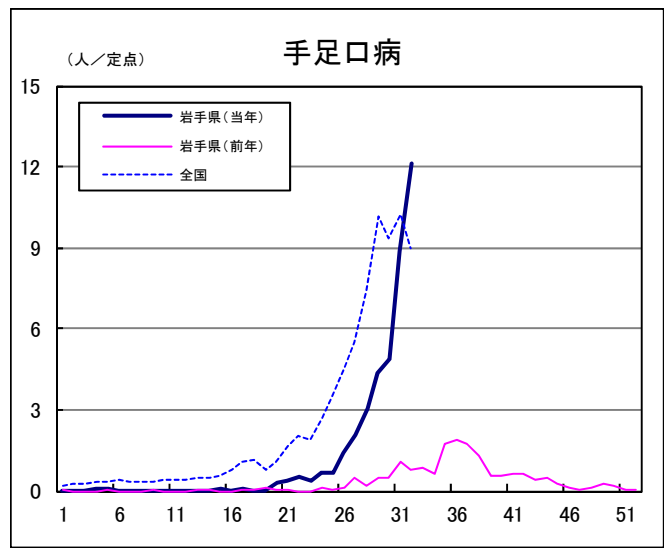
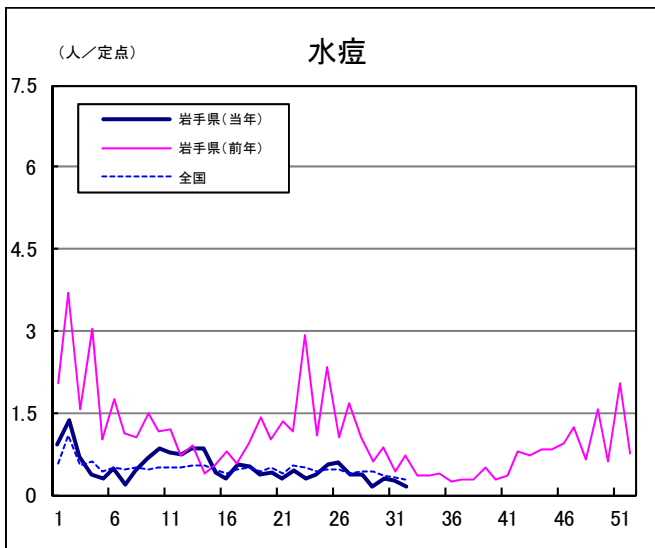
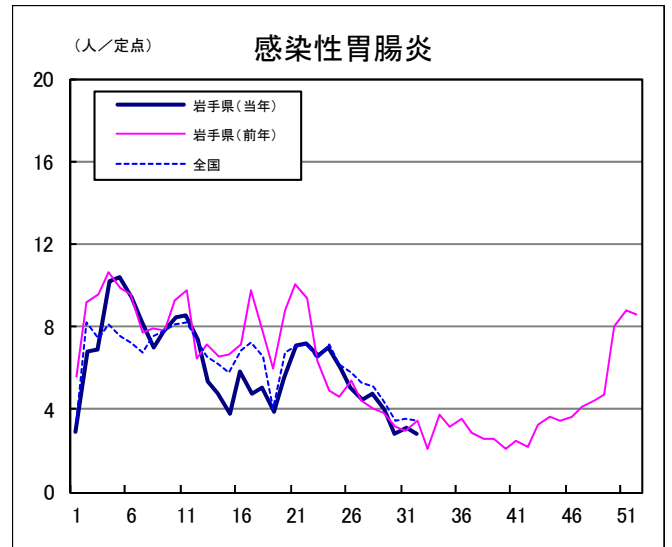
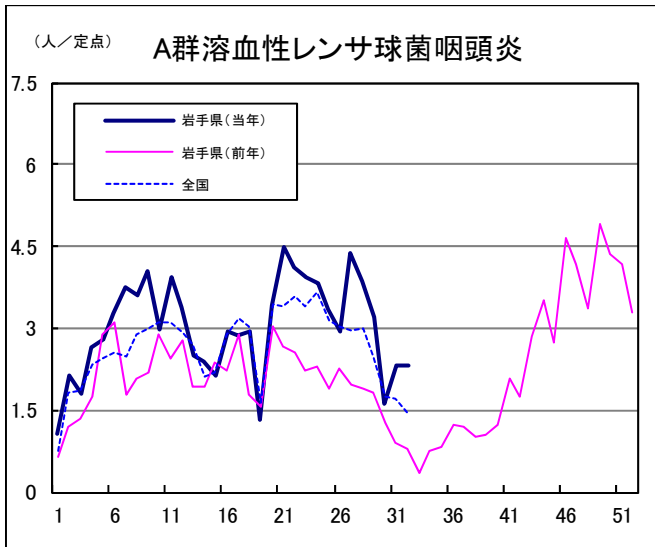
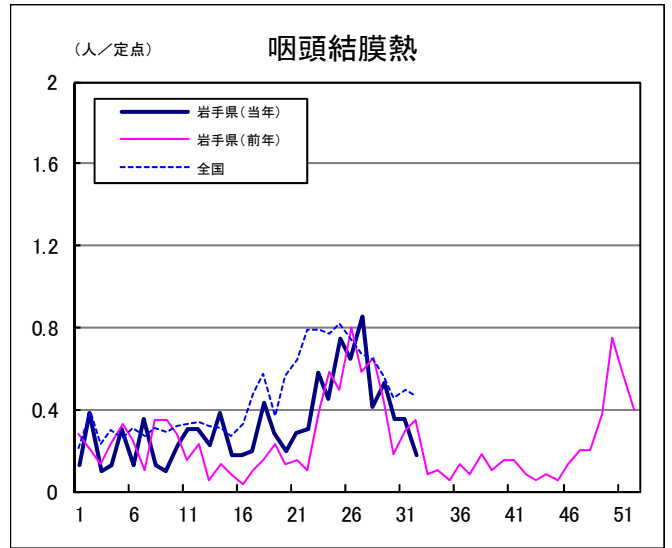
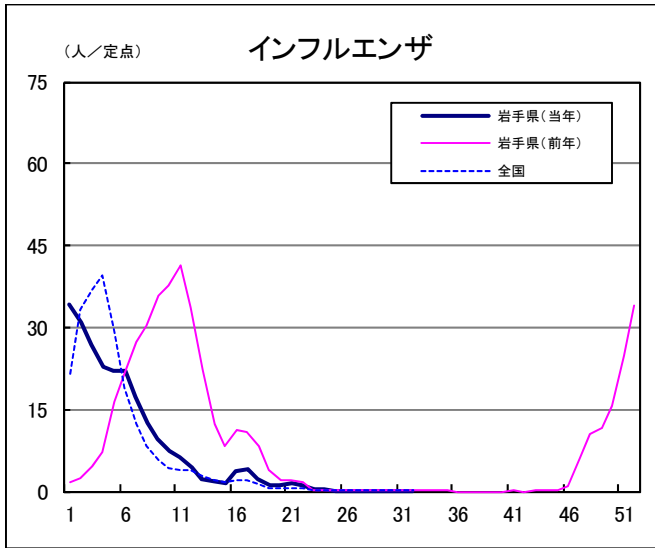
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

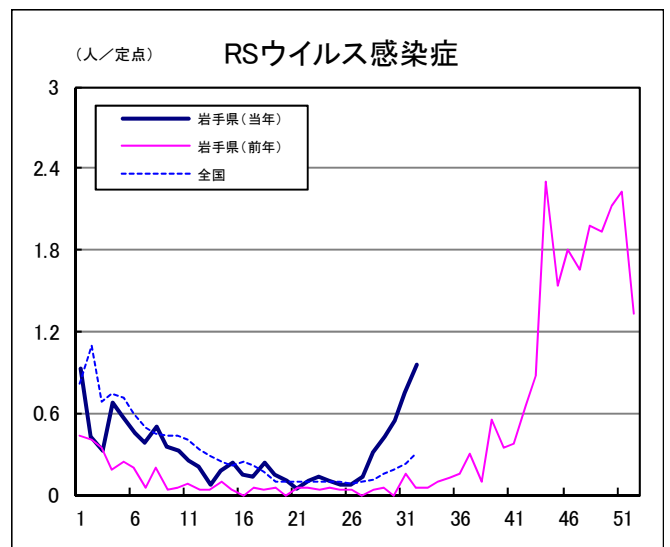
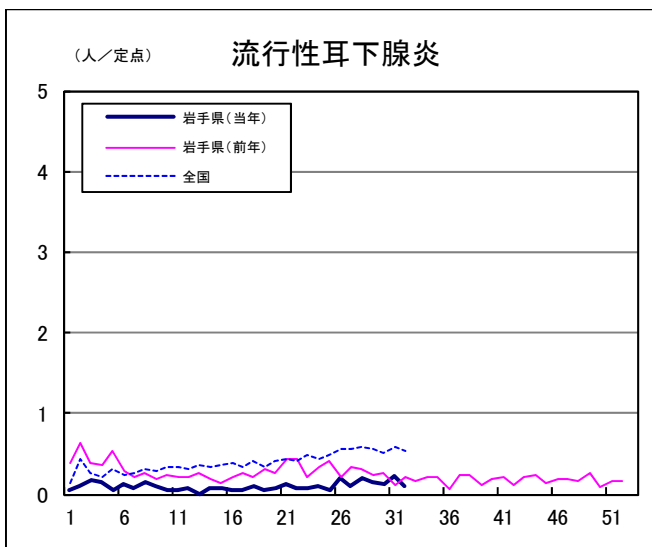
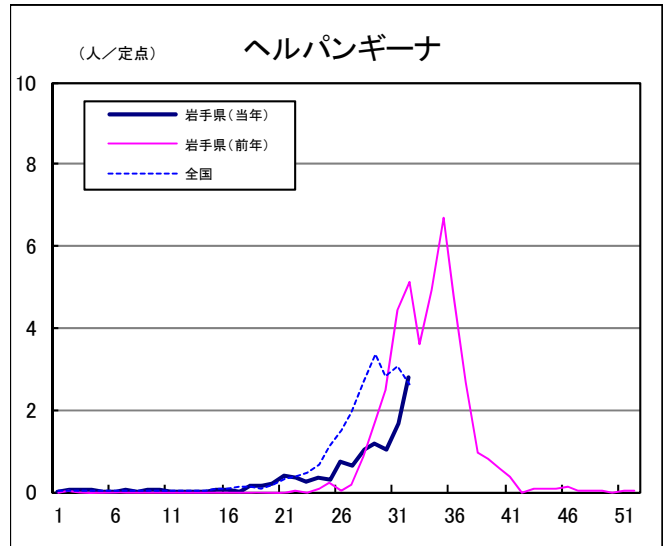
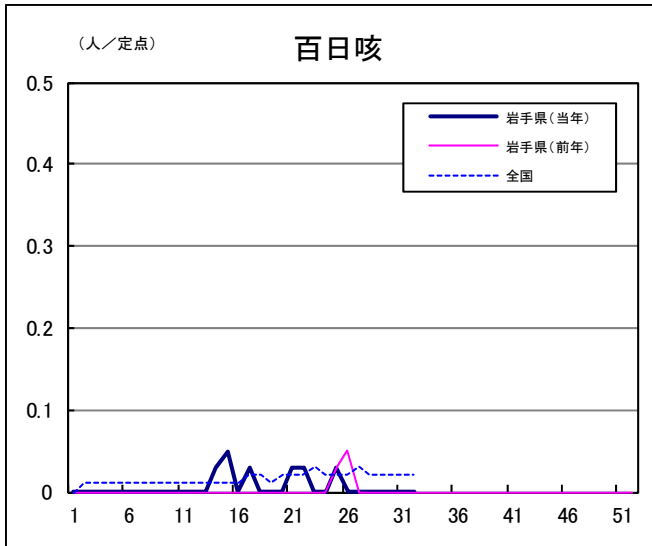
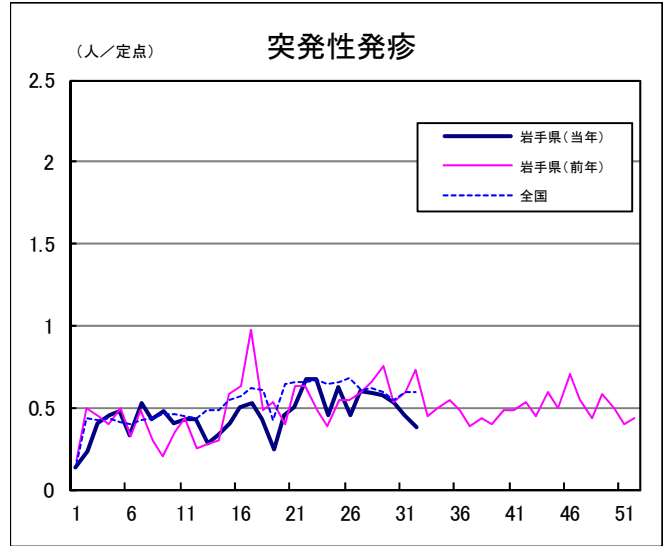
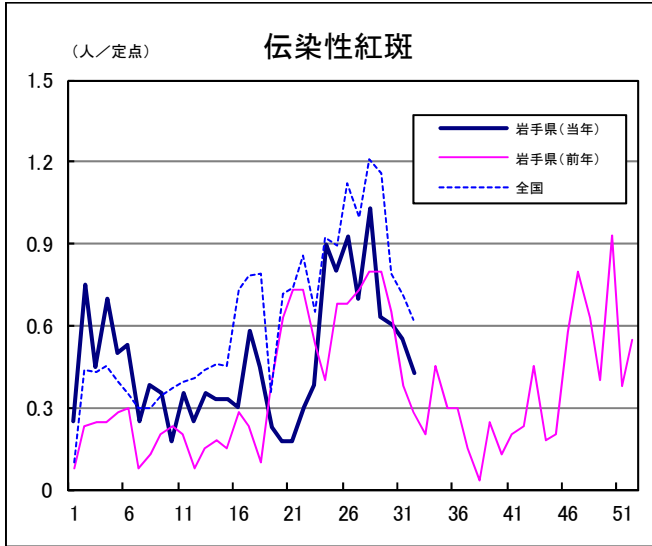
Q & A

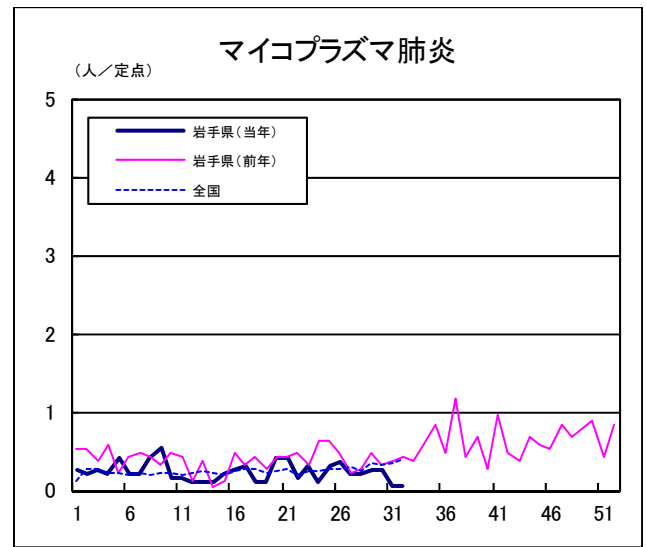
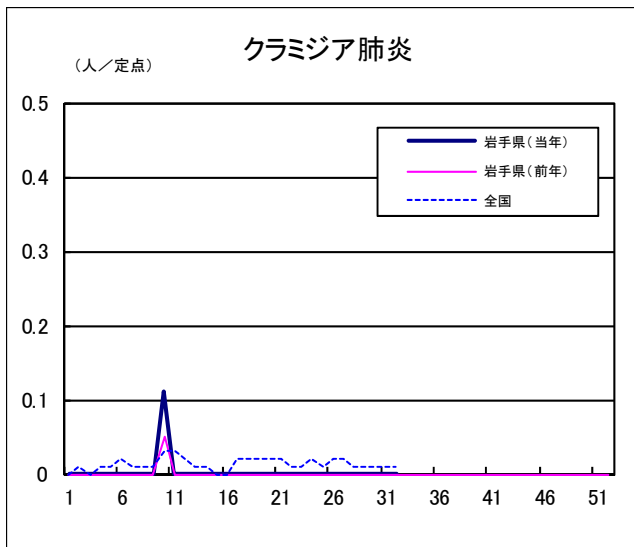
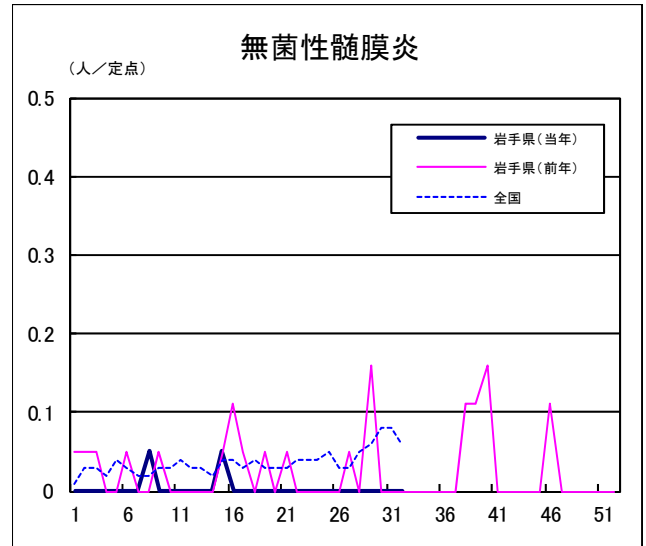
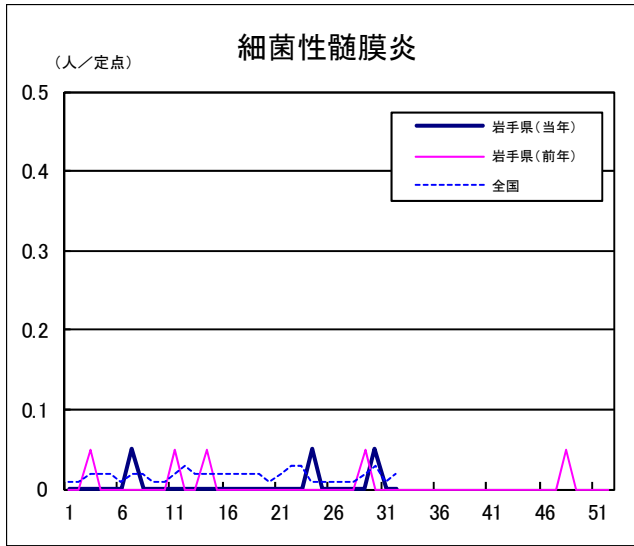
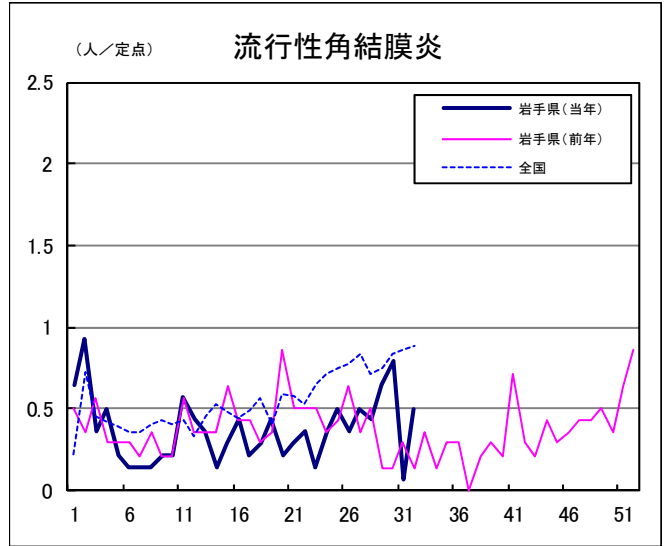
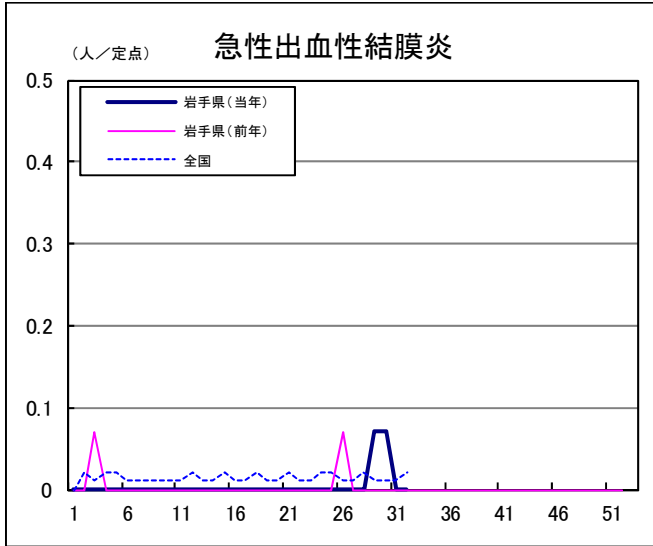
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第32週 平成27年8月14日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>